

2. 新型コロナワクチンは打ったほうがいいのか？

ワクチンを受ける目的は、新型コロナウイルスに罹る可能性を減らすこと、もし罹ってしまったとしても重症化を防ぐことにあります。しかしワクチンには副作用がつきものです。このため接種することのメリットと、副作用というデメリットを天秤にかけて判断することになります。

まずメリット、ワクチンの効果です。製薬会社によりワクチンの種類が異なりますが、現在接種が始まっているファイザー社の「コミナティ」というワクチンは、海外6カ国で16歳以上の40000人弱を対象に臨床試験が行われました。新型コロナウイルス感染歴のない18198人に3週間隔でワクチンを2回接種したところ、その後の観察期間に新型コロナを発症した人は8人でした。同じく感染歴のない18325人にはワクチンの代わりに生理食塩水を3週間隔で2回接種しました（二重盲検法といい、打つ方も打たれる方も本物のワクチンなのか偽物の生理食塩水なのかは最終段階までわかりません。試験は人権に配慮し、同意を得た上で行われています）。生理食塩水を接種された18325人のうち、観察期間に新型コロナを発症した人は162人でした。つまり、ワクチンを2回接種すると、発症する可能性は約1/20になるということです（有効率95.0%）。ちなみに、この冬はほとんど流行しませんでした。季節性インフルエンザの有効率は約50~70%程度とされています。

発症後の重症化を防ぐ効果はまだはっきりしていませんが、すごい効果だと思いませんか？

ではデメリット、副作用はどうでしょうか。一番気になるのは生命に関わるような副作用、アナフィラキシーです。アナフィラキシーは、アレルゲン等の侵入により、

「複数臓器に全身性にアレルギーが惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応」とされ、血圧低下や意識障害を伴う場合をアナフィラキシーショックと言います。つま

り、ワクチン接種後、多くは15分～30分以内に意識や血圧の低下、呼吸困難、蕁麻疹のような皮膚症状、腹痛、嘔吐などが出現して救急処置を必要とする状態です。新

型コロナ以外のワクチンや抗菌薬、解熱剤、造影剤、麻酔薬などの薬剤、輸血でも起こることがあります。また食物アレルギーや蜂毒などでも起こることがあります。

一般的に、ワクチンが原因のアナフィラキシーは、100万回接種に1.3回程度とされていますが、2021年1月21日時点でのアメリカ疾病予防管理センターの集計で

100万回あたり2.5～11.1回と、やや多いようです。しかし、たとえば抗菌薬のペニシリンは100万回あたり100～400回という報告もありますので、新型コロナワクチ

ンによるアナフィラキシー発症率は決して高いとは言えません。さらに日本の小中学生で食物によるアナフィラキシーを起こしたことがある児童・生徒の割合は、100万

人あたり約5000人にものぼります。

たとえアナフィラキシーを起こしても、早期に適切に治療が行われればショックとなる例は少なく、厚生労働省の統計では、日本でのアナフィラキシーによる年間死亡者数は40～80人程度です。日本の年間全死亡者数は140万人弱ですので、死亡原因としてはわずかです。

このほかに発熱や接種部位の痛み、倦怠感などといった生命には影響ないような副作用頻度は高いようです。人によっては翌日仕事をすることも困難になりますので、大切な予定の前日には接種を受けないほうがよいでしょう。しかし大部分は自然回復しますので、接種を受けるメリットのほうが圧倒的に大きいと思います。

今週、モデルナ社製の「COVID-19 ワクチンモデルナ」とアストラゼネカ社の「バキスゼブリア」が承認されました。当面使用されるモデルナ社のワクチンの有効率も94%程度、アナフィラキシーは100万回あたり2.5回と報告されており、ファイザー社のワクチンと大きな変わりはありません。こちらも2回接種が必要ですが、接種間隔は4週間です。

現在のところ、自治体が行う集団接種や個別接種にはファイザー社製、自衛隊の東京、大阪大規模接種センターではモデルナ社製のワクチンが使用されますが、今後変更になる可能性があり、ワクチンの種類は自分では選べません。2回とも同じワクチ

ンを打つ必要がありますので、原則として一回目と二回目は同じ会場で受けるように
してください。